

国立大学法人島根大学経営協議会（第123回）＜議事要録＞

日 時 令和4年1月21日（金）14：28～16：05
開催方法 本部棟5F大会議室（対面及びWEB会議）
出席者 服部学長，藤田理事，肥後理事，大谷理事，椎名理事，長澤理事，宮脇理事，大西委員，高塩委員，有澤委員，三輪委員，秦委員，上定委員，谷口委員，大矢委員，福島委員
欠席者 上野理事
オブザーバー 千家監事，栗原監事

議題1. 第4期中期目標（原案）・中期計画（案）の策定について

- 肥後理事から、第4期中期目標（原案）・中期計画（案）の策定について説明があった。
- 学外委員から、研究に関して論文数や科研費の採択額の目標設定があるが、次世代たたら協創センターとしての高い目標設定は行わないのかとの質問があった。学長から、次世代たたら協創センターについては「社会との共創」として別に目標設定を行っているとの説明があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

議題2. 島根大学ビジョン等取扱規程の一部改正について

- 肥後理事から、島根大学ビジョン等取扱規程の一部改正について説明があった。
- 学外委員から、第7条の学生及び卒業生等へのビジョンの発信は具体的にどのように行うのかとの質問があった。肥後理事から、ホームページや広報誌、同窓会誌等を通じて発信することを考えており、卒業生との交流の機会は設けていきたいとの回答があった。
- 学外委員から、学長候補者適任者の推薦資格者の対象に卒業生を加えることとしており、卒業生や同窓会が学長候補適任者を推薦することが今後あり得るので、そのためには大学の現状について卒業生に知ってもらうことが必要であり、大学ビジョンの卒業生への発信については、例えば教員が卒業生の様々な会合に積極的に出向いたり、学長が同窓会に参加して話をするなどの取組が重要になると考えるとの意見があった。学長から、コロナ禍になる前は東京や大阪、広島等の同窓会に必ず参加して大学の現状を報告してきたが、今後は別の方法も考えていきたいとの説明があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

議題3. 国立大学法人島根大学業務方法書の変更について

- 藤田理事から、国立大学法人島根大学業務方法書の変更について説明があり、審議の結果、原案通り議決された。

議題4. 教育の質保証及び学外者に対する準委任契約から雇用契約への切替について

- 藤田理事から、教育の質保証及び学外者に対する準委任契約から雇用契約への切替について説明があった。また、件名の「及び」は「のために」と表記するのが適切であるとの説明があった。
- 学外委員から、5年以上の雇用実績があれば無期転換できる労働法上の規定があり、雇用が固定化して新陳代謝が図れないというデメリットはあるが、新規の無期転換を発生させないなどの強引な人事管理に繋がらないよう留意いただきたいとの意見があった。藤田理事から、必要な注意を払いながら運用していきたいとの発言があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

議題5. 令和3年度補正予算（第2号）（案）について

- 長澤理事から、令和3年度補正予算（第2号）（案）について説明があった。
- 学外委員から、予備費を老朽化施設の修繕に充てることに異存はないが、予備費を活用して教員や学生のスタートアップ支援を行うなど、教員や学生の意欲を掻き立てて島根大学の新しい面を引き出せるのではないかと意見があった。学長から、今回は予備費の使途として老朽化が著しい施設の修繕に優先的に措置することとしたいが、スタートアップ支援といったプラスのアイデアはなかったので今後そのような方向でも考えてみたいとの発言があった。
- 上記の質疑応答の後、原案通り議決された。

報告事項1. 第120回経営協議会（書面審議）の結果について

報告事項2. 第121回経営協議会（書面審議）の結果について

報告事項3. 第122回経営協議会（書面審議）の結果について

- 学長から、第120回から第122回経営協議会（書面審議）の結果について報告があった。

報告事項4. 国立大学法人ガバナンス・コードの適合状況等の確認スケジュール及び実施状況について

- 学長から、国立大学法人ガバナンス・コードの適合状況等の確認スケジュール及び実施状況について報告があった。

報告事項5. コンプライアンスの徹底について

- 藤田理事から、コンプライアンスの徹底について報告があった。
- 学外委員から、12月がコンプライアンス強化月間だったとのことだが、コンプライアンスの意識を常に持つことが重要なので年間を通じて意識改革を行ってほしいとの意見があった。学長から、12月に一度強化月間として取り組んだが、その後、意識をいかに維持していくかを引き続き考えていきたいとの説明があった。

報告事項 6. 令和 2 年度に係る業務の実績に関する評価結果について

- 肥後理事から、令和 2 年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

報告事項 7. 令和 4 年度医学部入学定員増員計画について

- 肥後理事から、令和 4 年度医学部入学定員増員計画について報告があった。

報告事項 8. 退職給付引当金計上に係る計算方法の変更について

- 藤田理事から、退職給付引当金計上に係る計算方法の変更について報告があった。

- 学外委員から次の質問があった。

- ①適正な計算方法によれば 10 億円の積み立てが必要であったが、現時点では約 4 億円積み立てているので新たに 6 億円を積み立てなければならないということか。差額分の累積でこれだけ大きな額となり、単年度の利益に影響を与えるという理解で良いか。
- ②次年度以降も毎年の引当金の積立額も増加した額を積み立てることになるのか。
- ③結果として、本来予定していた投資を先送りしたり取りやめたりする事例が発生すると思われるが、どの分野に影響が出るのか。

藤田理事から次の通り説明があった。

- ①②全員が一斉に退職するわけではないので基本的には引当金として一定額は用意しなければならないが、すべて執行はせず継続していくものであると理解しており、予算については運用面で工夫していかざるを得ない考える。
- ③このことにより直ちに大幅な見直しを行うことは現時点では検討は始めている。

椎名理事から、現在の病院の経営状況はコロナ禍にあつて少し上向いており、今年度末の収支は釣り合うか少し赤字になる可能性があること、機器更新を 1 年後ろ倒しにしたものもあるが、コロナの補正予算措置もあり全般的には大きな影響を受けなかったこと、今後、予算において引当金の額を引き上げなければならないと考えていることについて説明があった。

報告事項 9. 令和 4 年度予算（案）の概要について

- 長澤理事及び学長から令和 4 年度予算（案）の概要について報告があった。

報告事項 10. 附属病院運営状況について

- 椎名理事から附属病院運営状況について報告があった。
- 学外委員から、ダ・ヴィンチ手術の必要機器 2 セットの整備を 1 セットに変更したのはコロナ禍の影響で症例数が少ないという事情があるのかとの質問があった。椎名理事から、症例数はあり 2 台の適用範囲ではあるが、まずは運用面を向上させ 1 台で賄おうと

しており、装置の一部分を更新したとの説明があった。

- 学外委員から、診療費用請求が昨年度に比べると上回っているとのことだが、コロナ禍前、2年以上前の数字から見ると減少しているのかとの質問があり、椎名理事から、2年前と比較しても若干上向いているとの説明があった。さらに椎名理事から、1月、2月は県内のコロナ感染状況がかなり厳しいが病院運営と地域医療への貢献とをバランスを取りながらやっていきたいとの発言があった。

報告事項 1 1. 理事の担当業務における本学の強みと課題について

- 藤田理事から理事の担当業務における本学の強みと課題について報告があった。
- 学外委員から、多くの大学が LGBT の学生から様々な配慮や要望の問い合わせを受けているという情報が度々伝えられているが、インクルーシブな環境整備について島根大学の現状と今後の取り組みをどのように考えているのかとの質問があった。藤田理事から、SOGI や LGBT について協議や相談を行いながら学内での講演会を行っていること、SOGI のワーキングで検討を行いガイドブックの準備を進めていることについて説明があった。さらに同学外委員から、専門知識を持った外部のアドバイザーからのサポートを受けることも重要と考えるとの発言があり、藤田理事から、本学の保健管理センターに SOGI や LGBT について強い関心を持つ教員がおり、県内で講演会を開催し自ら講演を行ったり外部から講演者を呼ぶなどの活動を行っており、そうした専門家とのネットワークを構築して意見を聞きながら取り組んでいきたいとの説明があった。

報告事項 1 2. 工学系新学部設置計画の検討状況について

- 学長から工学系新学部設置計画の検討状況について報告があった。
- 学外委員から、理工系の優秀な学生をどのように集めようとしているのかとの質問があった。学長から、県外からも優秀な人材を集めて新学部の取組を県民に示しながら徐々に県内からの入学者を増やしていきたいと考えていること、申請にあたっては大学、自治体、産業界の緊密な連携が重要な条件であり、それぞれと連携しながら取り組みを進めていること、教員や教育内容をしっかりと整え、来年度当初から県内高校に対する広報活動を強化して入学者を集めていきたいとの説明があった。
- 学外委員から、高専生を3年次編入で受け入れることも優秀な学生確保のための選択肢となるのではないかと意見があり、学長から、高専生の3年次編入は念頭になかったが検討したいとの発言があった。
- 学外委員から、既存の総合理工学部とは専門分野を住み分けるのか、それとも相乗効果を狙うのか、また、大学院につなげる展望はあるのかとの質問があった。学長から、総合理工学部の材料系分野は基本的には新学部に移すことで専門分野の差別化を図り、教育内容についてはより産業界に結びついた実践的な教育・研究を行うことで差別化を図っていくこと、大学院の設置も予定していることについて説明があった。
- 学外委員から、島根大学が挑戦するのは結構だが、18歳人口が一気に減少していくの

で、そのあたりの事情を勘案して決定すべきと考えるとの意見があった。

その他

- 学外委員から、島根半島・宍道湖中海（国引き）ジオパーク推進協議会と島根大学とのパートナーシップ協定締結について提案があった。学長から、大学として前向きに検討したいと考えているとの発言があった。

- 学外委員から、来年度から第4期中期目標期間に入り評価の在り方が変わるが、大学政策に関わる文部科学省や総合科学技術・イノベーション会議の動きを踏まえながら島根大学がどのような戦略を持って進もうとするのかその方針について話を伺い議論を行うことも必要ではないかとの意見があった。学長から、なるべく早い段階で委員の皆様と情報を共有しご意見を伺う機会を設けたいとの発言があった。